

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会
関係府省庁連絡会議（第11回）議事録

日 時：令和元年11月29日（金） 11：40－11：55

場 所：総理大臣官邸2階小ホール

出席者：

議長	内閣官房副長官（事務）	杉田 和博
議長代行	内閣官房東京オリンピック ・パラリンピック推進本部事務局長	平田 竹男
副議長	内閣危機管理監	沖田 芳樹
	内閣官房副長官補（内政担当）	古谷 一之
	内閣官房副長官補（外政担当）	林 肇
	内閣官房副長官補（事態対処・危機管理担当）	前田 哲
	文部科学事務次官	藤原 誠
構成員	内閣広報官	長谷川 榮一
	内閣審議官【内閣情報官代理出席】	櫻澤 健一
	内閣法制次長	岩尾 信行
	内閣府事務次官	山崎 重孝
	警察庁長官	栗生 俊一
	金融庁長官	遠藤 俊英
	消費者庁長官	伊藤 明子
	復興庁事務次官	末宗 徹郎
	総務事務次官	鈴木 茂樹
	法務事務次官	辻 裕教
	外務事務次官	秋葉 剛男
	財務事務次官	岡本 薫明
	厚生労働事務次官	鈴木 俊彦
	農林水産事務次官	末松 広行
	経済産業事務次官	安藤 久佳
	国土交通事務次官	藤田 耕三
	環境事務次官	鎌形 浩史
	防衛事務次官	高橋 憲一

【諸戸統括官】

ただ今より、第11回2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関係府省庁連絡会議を開催します。本日はご多忙の中ご参集いただき、ありがとうございます。私の方で進行を務めさせていただきますので、よろしくをお願いします。

まず、会議の開催に当たり、杉田副長官からご挨拶をいただきたいと思います。杉田副長官、よろしくお願いいたします。

【杉田副長官】

大きな盛り上がりを見せたラグビーワールドカップの閉幕から1か月近くが経過しました。来年7月24日に始まる東京オリンピック・パラリンピック大会まで残り8か月を切り、いよいよ東京大会に全力を挙げて準備を進めていかねばならない時期となりました。

その時は成功したと思っても、子細に確認を行ってみるとそれなりに反省・検討を行うべき事柄があるため、そうした経験を活かしつつ、東京大会の円滑な準備・運営と、大会を通じた新しい日本の創造に係る各省において所掌している取組を着実に実行するために残された時間は限られてきています。

次官の皆さまが、より広い視点に立ち、万全の準備を整えて気持ちよく大会当日が迎えられるよう、先頭に立って大会の成功に向けた準備に取り組んでいただきますようお願いします。

【諸戸統括官】

それでは、議事に入ります。本日の議事は全て報告事項です。

「ラグビーワールドカップ2019の開催結果」について、文部科学省 藤原次官よりご説明をお願いします。

【藤原次官】

皆様のおかげで、9月20日から11月2日まで行われたラグビーワールドカップを無事に終えることができました。本大会では、台風で3試合が中止となったことや、開幕当初の試合において行列により飲食物が購入できないといったこと、あるいは一部の外国人による問題行動などもありましたが、関係省庁の皆様方の多大なるご協力のもと、組織委員会において自然災害への対応や観客などのニーズへの対応が迅速にできましたことを改めて感謝申し上げたいと思います。

大会の成功を象徴する事例といたしまして、参加チームと地域住民との交流も報道されたり、キャンプ地でのおもてなしや、スタジアムの応援に選手らが反応して各チームが「おじぎ」をしたりといったことが印象的でした。

また、台風19号の影響で東日本大震災被災地の釜石で予定されていた2試合のうちの1試合が中止されたにも関わらず、カナダ代表がボランティアを行ったり、ナミビア代表が市民交流等を自発的に実施するといったこともございました。

2ページ目をご覧ください。本大会で発生した事案やその対応について、要点を絞ってご紹介申し上げます。

まずは発生事案について、台風19号の直撃により試合が中止になったことに関しまして、ワールドラグビーと組織委員会は、観客、選手など関係者全員の安全を最優先に考えた結果として、10月12日の豊田と横浜、13日の釜石の3試合が中止となり、チケットの払い戻しが行われました。ただ、13日の横浜の日本対スコットランド戦につきましては、組織委員会と自治体、ボランティアの懸命な復旧作業により無事に開催することができました。

次に持込み禁止物品の変更についてです。開幕当初、会場内の売店において行列により飲食物

が購入できないといった事象がございましたが、組織委員会において、速やかに食べ物の持込み規制緩和などの対応策を行ったところであります。

こうした自然災害への準備や観客などのニーズに的確に対応ができる体制の構築は、大規模国際競技大会を開催するに当たり大変重要なポイントと考えております。

警備・防災の関係では、外国人の飲酒による喧嘩や、観客がフィールドに侵入した事案などが発生しましたが、会場内・フィールド警備を強化するなど、警備体制を見直し再発防止を図りました。また、不正転売サイトによるチケットの問題や会場周辺のダフ屋行為については、警察とも連携し対応しております。

また、電気系統の不具合による分電盤の異常発熱が発生した会場がありましたが、複数ある電源の系統の一つを遮断することにより、多少の影響はあったものの試合の続行可能な状態を保つことができました。

さらに、サイバーセキュリティー関係については大会期間中、大量のデータを送り付けるサイバー攻撃やパスワードをだまし取るため、送信元を偽ったフィッシングメールなどの攻撃を受けておりましたが、組織委員会において回線を一時的に遮断するなどの対策を講じたため大会運営に支障を来すような実害は生じなかったところであります。

次に、運営における対策及び課題についてです。運営関係の課題については、関係者相互の情報共有と連絡調整のための会議を開催いたしました。特に直前に多数関係者が増えたため、調整及び情報共有が難航した事例がございました。

セキュリティーの関係について、スタッフのアクセス管理については、顔写真入りで厳格な管理を行った結果、登録の遅延や複雑なゾーン規制などの情報共有が難航したところでありますが、警備ガイドラインによるセキュリティーポリシーに関しては、関係者や観客に持込み禁止物やスクリーニング方針について事前に周知したため、スクリーニングにおいて大きな問題はありませんでした。

チームセキュリティー管理については、各チームに2名配置しましたが、チームからの移動に関する要望が多く、急な経路変更などの対応に追われましたが、警察とも連携し十分な対応を行うことができたということです。

外国人・インフラ対策としては、語学ボランティアの活用や英語表記サインの設置を促進し、さらに仮設トイレや喫煙場所を示すサインを増設したところでしたが、相対的な不足は解消しきれなかったところでした。

最後にドローン対策について、文部科学省において、ラグビー特措法に基づき、小型無人機等の飛行を禁止する対象大会関係施設等の指定を行うとともに、政府広報をはじめ様々な広報媒体を用いた周知に取り組みました。組織委員会においても、観客や関係者等を対象にした各種広報や会場にサインを設置して周知徹底を図ったところでした。

結びになりますが、本大会ではおおむね以上のような事案が発生し、組織委員会・開催都市を中心に対応いたしました。1万3千人のボランティアの大会運営への積極的な参加も大会成功に大きく貢献したと考えております。本大会を通じて得られた大会運営に関する知見については、しっかりと2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の運営に反映できるよう、関係機関と情報共有等を行うことにより大会成功に繋げていきたいと考えております。報告は以上となります。

【諸戸統括官】

ありがとうございました。続きまして、「2020年東京大会に向けた最近の取組」について、平田事務局長よりご説明をお願いします。

【平田事務局長】

資料2をご覧ください。2020年東京大会がいよいよ来年に迫ってまいりました。新国立競技場をはじめ、競技会場はおおむね完成しつつあります。チケットも順調に売り出されており、また、ボランティアへの研修も始まっています。大会本番に向けた準備が実行段階に入っていますが、政府として、今後取り組むべき課題などについてご説明いたします。

1 ページをご覧ください。今夏の交通対策の試行結果と今後の取組についてです。輸送については、今年の夏に、交通量削減に取り組ましました。各府省庁で、コア日の7月24日には、目標である5割を超える職員にピーク時間帯を避けた出勤を行っていただきました。ご協力に感謝するとともに、大会本番での一層の取組をお願いいたします。道路交通については、一定程度は削減されましたが、大会本番の目標に達していません。このため、特に物流を中心に、関係府省庁から関係業界への働きかけをお願いいたします。このような取組に加え、首都高の料金施策を導入した上で、必要に応じ交通規制も実施し、円滑な交通を実現してまいります。

2 ページをご覧ください。セキュリティ対策についてです。大会の成功にはセキュリティの確保が不可欠です。「東京大会に向けたセキュリティ基本戦略」を、昨今の情勢に合わせ、本年7月に一部改定いたしました。また、聖火リレーに合わせて設置する「セキュリティ調整センター」を中心とした対応がG20サミットや即位の礼、ラグビーワールドカップを含めた各種経験を踏まえた適切なものとなるよう、ご協力をお願いいたします。

3 ページをご覧ください。テストイベントを踏まえた暑さ対策については、今年の夏のテストイベントの結果をしっかりと検証し、大会本番に向けて、更に強化する必要があります。具体的には、「熱中症対策ガイドライン」の改訂、競技会場ごとの暑さ指数の効果的な活用や、訪日外国人に対するきめ細かな情報発信など、取組の一層の充実をお願いいたします。

4 ページをご覧ください。大会に向けた感染症対策についてです。関係機関が緊密に連携した感染症対策を推進していくため、本年8月に、「大会に向けた感染症対策に関する推進計画」を策定しました。特に、国内での感染が増えている風しん・麻しんについては、水際対策や訪日外国人と接する機会のある大会関係業務に従事する者などに対して、感染リスクを低下させるための特別対策を実施しています。この特別対策を含め、推進計画に基づく感染症対策を確実に実施していただくようお願いいたします。

5 ページをご覧ください。大会に向けた受動喫煙防止対策についてです。受動喫煙防止については、来年4月、改正健康増進法が全面施行されます。本年2月には、組織委員会から競技会場敷地内の完全禁煙の方針が示されています。関係機関におかれてましては、受動喫煙防止に向けた取組の強化をお願いいたします。

6 ページをご覧ください。ホストタウンは、登録392件、464自治体、相手国・地域数も大会に参加する国・地域の75%に相当する156まで拡大しました。ホストタウン首長会議では、競技終了後に選手に訪問してもらい交流を行うホストタウンの愛称を「ただいま・おかえりホストタウン」として、一層普及を行うことを明らかにしました。また、ホストタウンそれぞれのオリジナル切手も続々と発行されていることを報告しました。

7 ページをご覧ください。復興ありがとうホストタウンについてですが、復興オリンピック・パラリンピックは東京大会の柱の一つです。復興ありがとうホストタウンは27件まで拡大しています。今月4日に福島県Jヴィレッジで開催した復興ありがとうホストタウン連絡協議会の第2回総会では、ポケモンを「復興ありがとうホストタウン大使」に任命しております。被災地復興の後押しとその姿を世界へ発信するため、一層の理解と協力をお願いいたします。

8 ページをご覧ください。共生社会ホストタウンについてですが、パラリンピアンを受入れを

契機に、各地での共生社会の実現に向けた取組を加速するため、共生社会ホストタウンを推進しています。自治体ならではの特色ある取組を実施しており、現在37件まで拡大してきております。

9ページをご覧ください。ユニバーサルデザインについて、共生社会の実現を東京大会の最大のレガシーとして残すべく、心のバリアフリーとユニバーサルデザインの街づくりに全力で取り組んでいます。国土交通省においては、共生社会ホストタウンの取組をレガシーとしてバリアフリー法に取り込むよう、法改正の検討を開始していただいたところです。この他にも、障害者の意見に真摯に耳を傾け、施策の改善に取り組んでまいります。

10ページをご覧ください。健康面等でのレガシーを創出するため、自己ベストを目指す個人の人々の取組を支援する事業を認証する「beyond2020マイベストプログラム」を推進しております。これまでに小中学校での児童生徒による新体力テストの記録向上への取組など計59件を認証しており、引き続き、このプログラムの普及に取り組んでまいります。関係府省庁においても、協力・連携をお願いします。

11ページをご覧ください。日本文化の魅力発信について、組織委員会、東京都、政府が連携して文化プログラムに取り組んでいます。政府においては中核的事業として「日本博」を実施しております。来年3月にはオープニングセレモニー・記念公演を予定しており、2020年を中心としてつつ幅広く展開してまいります。また、大会への機運を醸成するため、次世代に誇れるレガシー創出に資する文化プログラムを認証する「beyond2020プログラム」を推進してまいります。

また、食についてですが、日本の食文化の発信のため、組織委員会等と連携し、選手村カジュアルダイニングにおいて、産地名も表示しつつ国産食材の魅力を効果的にPRしてまいります。

最後になりますが、今日1日の四者協議を経て、オリンピックのマラソン・競歩の会場が札幌に変更されました。政府としては、この結果をしっかりと受け止め、全力でバックアップしていくこととしております。今後、実施内容の具体化に応じて、関係府省庁においても連携・協力をよろしくをお願いします。

本日で、オリンピックまで238日、パラリンピックまで270日となりました。ラグビーワールドカップの経験も活かしつつ、大会の成功に向け、関係府省庁の皆様と一層連携して取り組んでまいります。何卒よろしくようお願い申し上げます。

【諸戸統括官】

ありがとうございました。これまでの説明に対しご意見等がある方はご発言をお願いします。まずは、国土交通省 藤田次官お願いいたします。

【藤田次官】

国土交通省では、共生社会ホストタウンにおけるユニバーサルデザインの街づくりと心のバリアフリーを一体的に推進する取組が、東京大会のレガシーとなるよう、バリアフリー法のマスタープラン・基本構想制度における心のバリアフリーの取組強化について、文部科学省とも連携しながら法改正を検討しております。

今後も、バリアフリー化の推進や共生社会の実現に向け、障害当事者の方の声も聞きながら、一層取り組んでまいりますので、関係府省庁の皆様のご理解・ご協力の程よろしくようお願いいたします。

【諸戸統括官】

続きまして、文部科学省 藤原次官お願いいたします。

【藤原次官】

心のバリアフリーの取組強化を柱とするバリアフリー法改正の検討に際しましては、文部科学省では教育を推進する観点から、国土交通省と緊密に連携しつつ取り組んでまいりたいと考えております。

また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、文化観光を推進していくことが重要であるため、地域の博物館などの文化施設を中核として、文化及び観光の振興、地域の活性化を図るための拠点を支援する新たな仕組みを、現在、検討しているところです。

【諸戸統括官】

ありがとうございました。ご発言はここまでとさせていただきます。最後に、杉田副長官より、一言ご発言をいただきたいと思っております。杉田副長官、お願いいたします。

【杉田副長官】

本日は、藤原文部科学事務次官からラグビーワールドカップについて、平田事務局長から東京大会に向けた最近の取組について、説明をいただきました。

輸送、セキュリティ、暑さ対策をはじめ政府の取組について、これから8か月の間に何を行うかの進捗管理がこれまで以上に重要になります。

また、ホストタウンや共生社会の実現など、次世代に誇れるレガシーを創出し、国内外へ積極的に発信することについての準備を進めていくことが重要です。

次官の皆さまにおかれては、リーダーシップを発揮して、それぞれの施策の進捗をしっかりと管理していただくよう、重ねてお願いいたします。

【諸戸統括官】

ありがとうございました。本日の会合はここで閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。